

標準締付トルク一覧表

M3	(0.8~1.3)N・m	{{8~13}kgf・cm}
M5	(3~4.5)N・m	{{30~45}kgf・cm}
M6	(6.5~9.5)N・m	{{65~95}kgf・cm}

※本文中に締付トルクの記載が無いねじ締結部は、上の表に従って組み立てを行ってください。

未組み立て部品について

■未組み立て部品明細表

チェック	部品名	個数
	ペダル	1セット
	バルブガード(組み付け用部品を含む)	1セット
	端子カバー	1

お願い

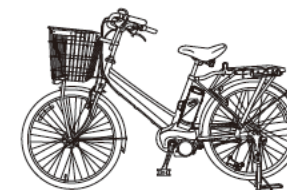
- 左記部品は梱包のために仮組み付けしている場合もありますので、取り付け状態や締め付けを必ず確認、調整してください。

Panasonic®

組立説明書

電動アシスト自転車

販売店様用 K-2030



ELG63

品番 BE-ELG43/63, BE-ELGS62, BE-ELG03

ビジネスビビ

組立説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に組み立ててください。
特に「安全上のご注意」は、組み立て前に必ずお読みください。

お願い

- 工場より出荷された自転車は社内規格によって正常かつ確実な組み立てを行っており、梱包も損傷することの無いよう配慮しております。しかし、輸送中の振動・衝撃により金属部分の接触面などにナジミを生じ、緩むことも考えられます。車輪の振れ、各部締め付けねじ類を点検・調整の上、完全な商品としてお客様にご販売くださるようお願いいたします。
- 前後タイヤの空気圧の点検をお願いします。
- 点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。
- 次回の点検からも取扱説明書の裏表紙にある定期点検・整備チェックリストをもとに確認してください。
- メンテナンスする際にも組立説明書が必要になります。ご販売店様でも保管することをおすすめします。



お知らせ

- 組立説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しないで組み立てされたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その組み立てが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 説明で、図などが多少異なりますが取り扱いおよび組み立て方はほぼ同じです。

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。


 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。


 してはいけない内容です。	 実行しなければならない内容です。
--	--

警告

■ブレーキレバーのモード切換金具は、指定の位置にする

-  極端なブレーキの効きすぎや、制動力不足をひき起こす可能性があり、転倒によるけがのおそれがあります。

■ワイヤアジャストナット(ロックナット)は確実に締め付ける

-  ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

パナソニック サイクルテック株式会社

〒582-8501 大阪府柏原市片山町13番13号

© Panasonic Cycle Technology Co., Ltd. 2015

NYK2030 P0815-0

安全上のご注意 必ずお守りください

警告

■ブレーキグリスの補給には、必ずローラーブレーキ専用グリス(NBP002)を使用する

- ❗ 制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
- 補給する目安は1回約5gです。

■チェーン調整時、適正寸法を守る

- ❗ チェーンが外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

■ワイヤ・コード類は、指定の場所、指定のコードクリップなどで固定する

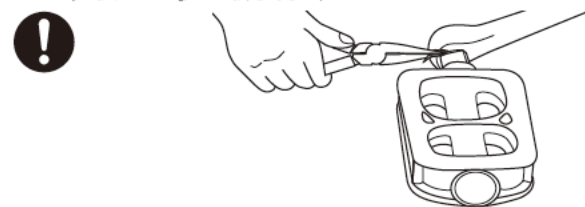
- ❗ ワイヤ・コードを車輪などに巻き込んで、急激にロックし、転倒によるけがのおそれがあります。

■安全装置(リフレクターなど)は取り外さない

- ❗ 外したまま使用すると、事故発生によるけがの原因になります。
- 禁止

注意

■ヒゲ状のバリを取り除く



- バリによるけがのおそれがあります。
- ペダルをクランクに締め付けた際に、ヒゲ状のバリが発生することがあります。バリが残らないように、工具(ラジオペンチ・ニッパーなど)で取り除いてください。このとき、けがをしないよう注意してください。

■インナーワイヤの先端には、必ずインナーワイヤキャップを組み付ける

- ❗ 組み付けないとけがのおそれがあります。

組立方法

■手元スイッチの角度調整

○手元スイッチは図のように起こし、適正な角度で締め付けを行ってください。



ご注意

- 締めすぎると、変形・外観不良の原因になります。特に、電動ドライバーで締め付けを行う場合、設定トルクによっては、ナットが共回りしてしまうことがありますので、十分注意してください。

■ハンドルステムの調整

お願い

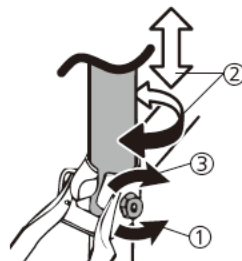
- さび付きによる固着を防止するためハンドルステムの挿入部には薄くグリスを塗ってください。

■サドルの高さと向きの調整

- ① ナットを緩める。
- ② サドルの高さと向きを調整する。
- ③ ナットを締める。

締め付けたときのトルク：
(18~21)N·m {(180~210)kgf·cm}

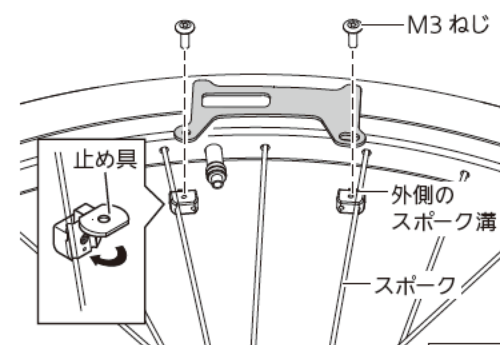
- ④ がたつきやずれが無いことを確認する。



組立方法(つづき)

■バルブガードの組み付け

○バルブが錠のカンヌキによって破損するのを防ぐため、下図のように、後車輪左側にバルブガードをねじで固定してください。



締め付けたときのトルク
(0.8~1.3)N·m
{(8~13)kgf·cm}

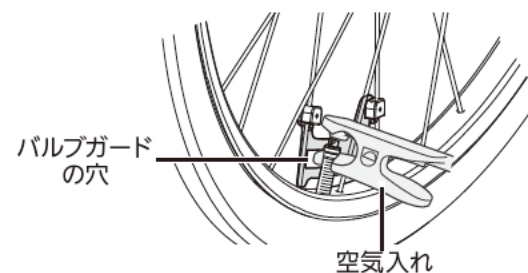
お願い

- 刻印がある面をチェーン側に向けて取り付けてください。
- ねじ締め後、がたつきが無いか確認してください。

●空気の入れ方について

お願い

- 空気入れ使用時、バルブガードの反対側(車輪右側)から下図のように装着してください。



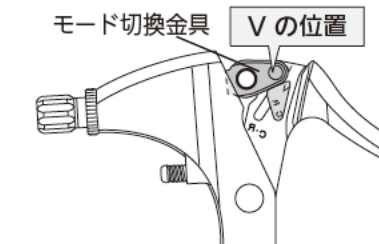
■ブレーキレバー、モード切換金具位置の確認

○左右ブレーキレバーのモード切換金具位置が下のようになっているか確認してください。

当該自転車のブレーキ仕様	
前	Vブレーキ
後	ローラーブレーキ

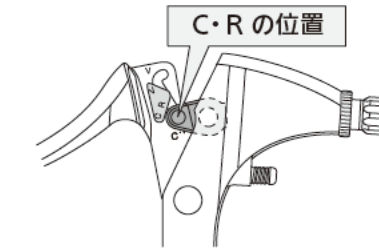
モード切換金具位置

右
前
ブレーキ
レバー



Vとは、Vブレーキ対応のモード位置を意味します。

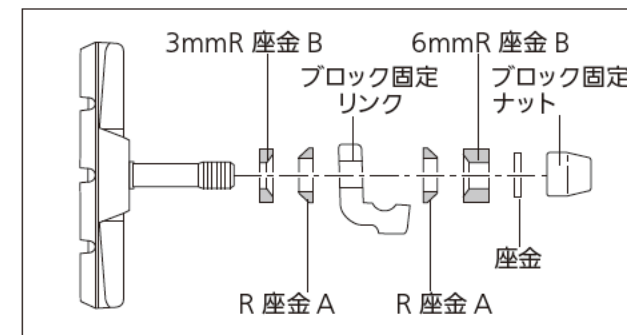
左
後
ブレーキ
レバー



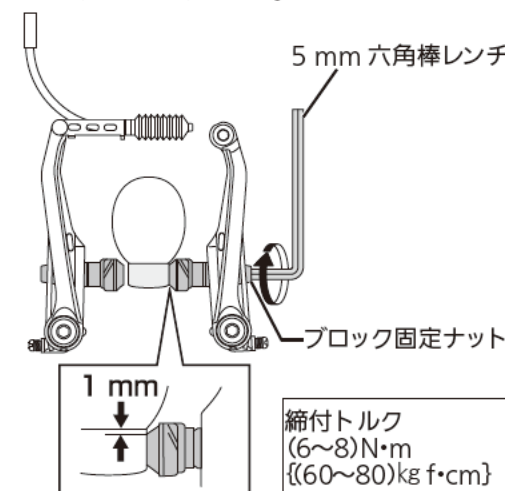
Cとは、カンチレバーブレーキ対応のモード位置を意味します。
Rとは、ローラーブレーキ対応のモード位置を意味します。

■前ブレーキの確認

○このモデルの前ブレーキの仕様は、下図のようになっています。



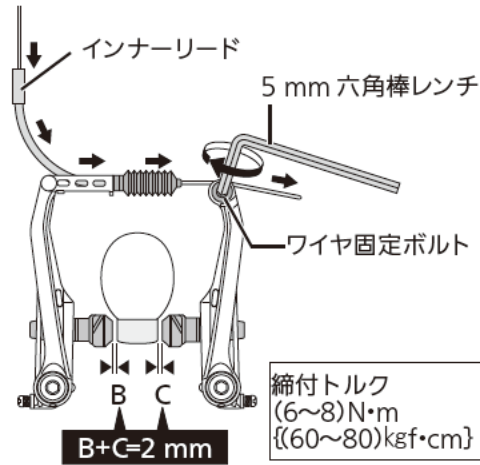
- ① ブロックをリムに押し当てた状態で、ブロック固定ナットを締め付けます。このとき、タイヤとブロックのすき間が約1mmになるようにしてください。



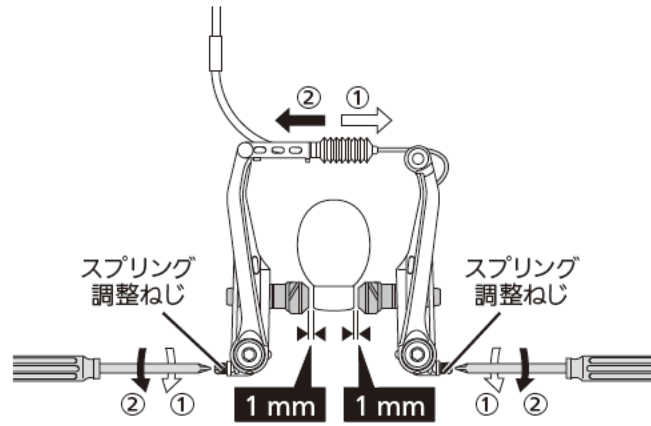
締め付けたときのトルク
(6~8)N·m
{(60~80)kgf·cm}

組立方法(つづき)

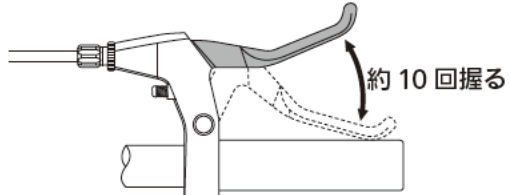
②インナーワイヤをインナーリードに通し、ブロッククリアランスの左右合計が 2 mm の状態で、ワイヤ固定ボルトを締め付けます。



③スプリング調整ねじでバランス調整をします。



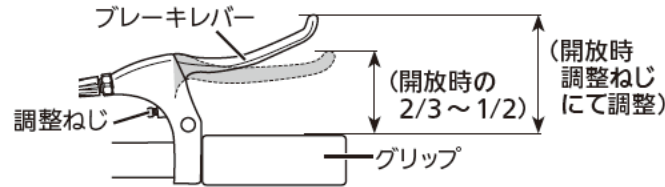
④ブレーキレバーをグリップに付くまで 10 回ほど握り、各部に異常が無いことと、ブロッククリアランスを再確認してからご使用ください。



■後ブレーキの調整

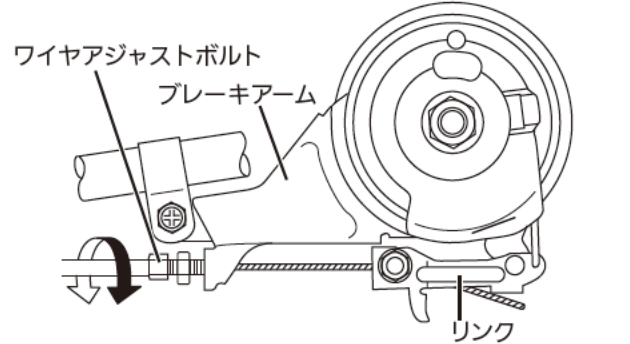
●ブレーキレバーとグリップの間隔

○ブレーキレバーとグリップの間隔は、開放時の 2/3 ~ 1/2 の位置で、ブレーキが利きだすように、調整する。

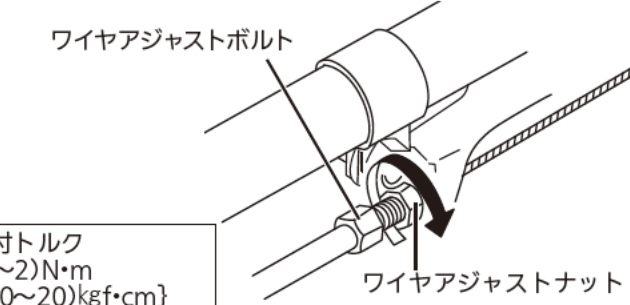


●後ローラーブレーキの調整

○ワイヤアジャストボルトを回して、ブレーキレバーとグリップの間隔が、開放時の 2/3 ~ 1/2 の位置で、ブレーキが利くように調整します。



○ブレーキレバーを握り、ブレーキの利きを確認したあと、ワイヤアジャストナットでワイヤアジャストボルトを固定します。



お願い

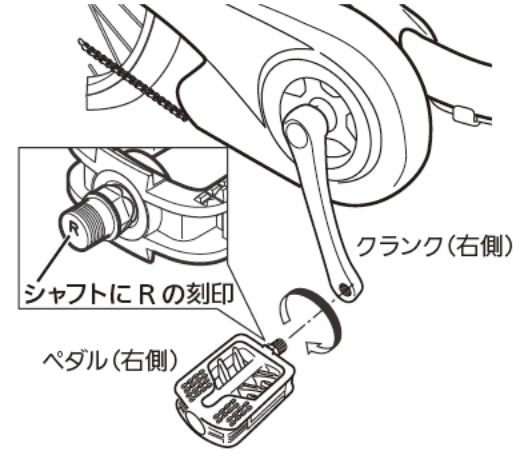
- 確実な制動力を得るために、通常約 1~2 年に 1 回程度はローラーブレーキ専用グリスを補給してください。
- ブレーキをかけた場合、音鳴りがしたり、ブレーキの利きが異常に強すぎたりするとき、ブレーキグリスの不足が考えられます。ローラーブレーキ専用グリスを補給してください。

組立方法(つづき)

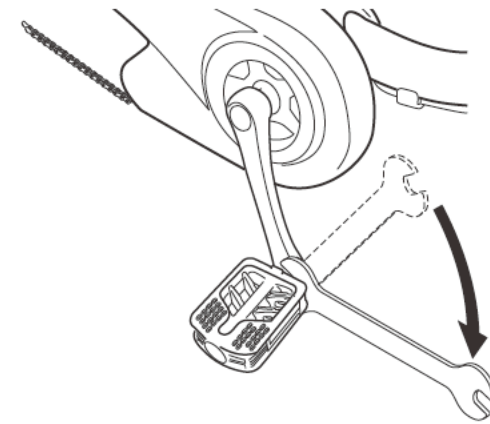
■ペダルの組み付け

※ペダルは左右でねじ方向が違います。右ペダルは右ねじ、左ペダルは左ねじです。

①クランク(右側)にペダル(R)のシャフトを時計方向に回し、ねじ込みます。



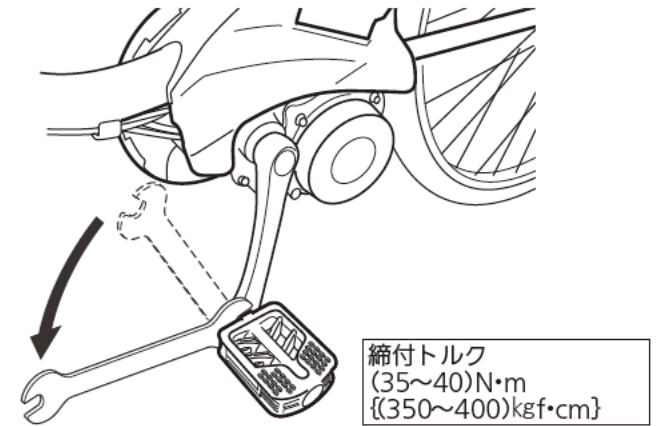
②ペダルレンチで締め付けます。



③クランク(左側)にペダル(L)のシャフトを反時計方向に回し、ねじ込みます。

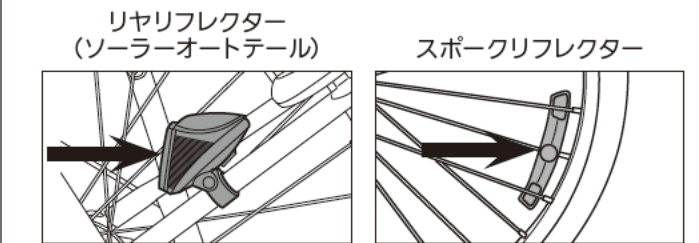


④ペダルレンチで締め付けます。



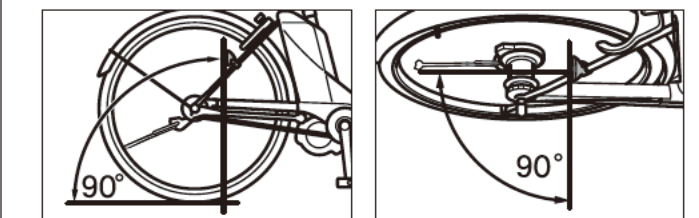
※最後の締め付けは、約 45° 上方の点線の位置より、矢印方向に回して固定してください。
(走行時のクランク回転方向が、ペダル締め付け方向です。)
※ヒゲ状のバリが発生することがあります。バリが残らないように、工具(ラジオペンチ・ニッパーなど)で取り除いてください。

■リヤリフレクター、スポークリフレクターの組み付け



●リヤリフレクターの組み付け

○右シートステーに、リヤリフレクターの反射面が地面および後車輪に対して、直角になるように組み付けてください。

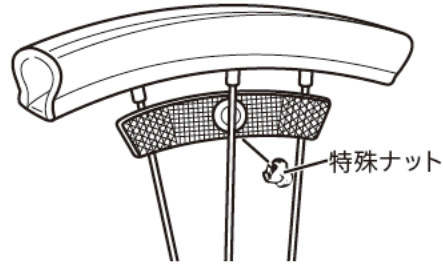


締付トルク (3~4.5)N・m [(30~45)kgf・cm]

組立方法(つづき)

●スポークリフレクターの組み付け

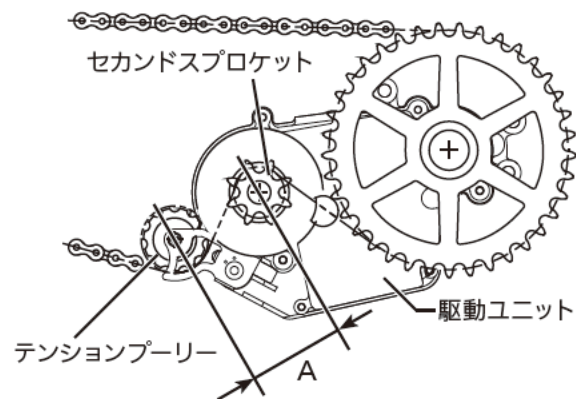
○スポークの間にリフレクターを差し込んで中心部の溝にスポークをはめ込み、タイヤに近づくように押しつけます。特殊ナットをスポークの上からリフレクターに差し込み時計方向に回して固定してください。



■チェーンテンション(張り)の調整

○出荷時、チェーンの張りは調整済みです。(A寸法: 60 mm ~ 70 mm)

○メンテナンス時(チェーンが伸びた状態)にチェーンの張りをチェーン引きにて調整する場合、A寸法が 65 mm ± 3 mm が適正寸法です。適正寸法を守らないと、音鳴り、チェーン飛びやチェーン外れの原因になります。



●チェーンについて

お願い

●この自転車は電動アシスト自転車用に耐久性を高めた強化チェーンを使用しています。チェーンを交換する際は、必ず純正チェーンを使用してください。



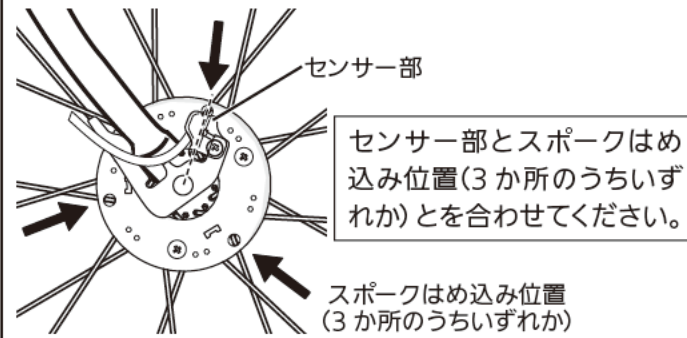
組立後の確認

■ホイールセンサーの動作確認

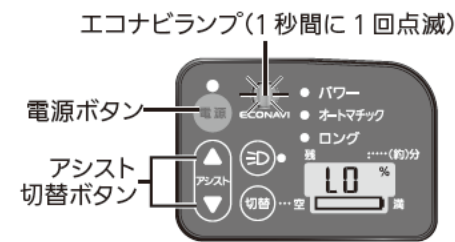
お願い

●必ず前車輪の1回転分の表示切替わりを確認してください。また、回転の途中で反転などさせないでください(正しく確認できなくなる場合があります。⇒下記、●リセット方法を参照)。

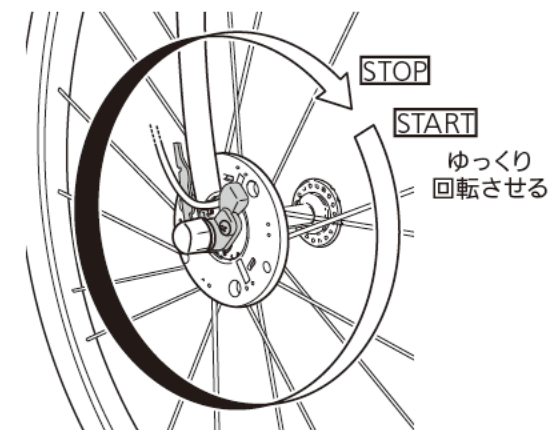
- ①自転車を停車し、電源を切ります。
- ②前車輪を回転させ、下図の位置に合わせます。



- ③アシスト切替ボタンの △ ▽ ボタンを同時に押しながら、電源ボタンを押してください。エコナビランプが点滅した状態で起動します。この表示は動作確認モードに入ったことを示しています。

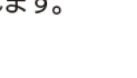
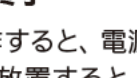
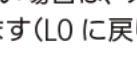
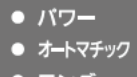
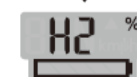
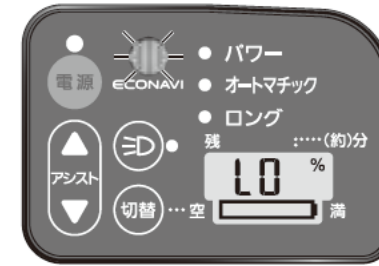


- ④前車輪を浮かせて、ゆっくりと1回転させ、手元スイッチの表示が次のような表示をしているか確認してください。(必ず、1回転で止めてください)。



●確認のポイント

前車輪を回転させると、液晶表示部の2桁目が「H」と「L」の表示を交互に繰り返しながら1桁目の数字が「0」～「6」まで増えていきます。ちょうど1回転したあと、「6」まで表示すると、正常品であり、確認は終了です。



「6」の表示が確認できれば正常品です。

●リセット方法

確認をやり直したい場合は、アシストボタンの「▼」を押すと、リセットできます(L0に戻ります)。

●動作確認の終了

電源ボタンを操作すると、電源が切れ、動作確認が終了します。約10分間放置すると、オートオフシステムが働き、電源が自動で切れます。

お客様への説明

必ずお客様にご説明の上お渡しください。

お願い

- 保証書に必要事項をご記入いただき、「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。(キーの番号は保証書に印字されています)
- 防犯登録が義務化されていることをご説明いただき、登録を行ってください。
- 組み立て後、バッテリーを満充電してください。3か月以上の長期保存の場合、およびお客様に商品をお渡しする際にも、満充電をしてお渡しください。
- 組み立ての済んだ自転車は取扱説明書裏表紙の「定期点検・整備チェックリスト」にてチェックを行い、必ず実走によるブレーキテストを実施の上、お客様にお渡しください。

■端子カバーの使いかた

お願い

- 長期間、自転車からバッテリーを取り外したままにする場合や、充電器を使用にならないときは、汚れやほこりが付かないように、付属の端子カバーを装着してください。



ツメを合わせる